

# 児童学科における初年次のキャリア教育 — 活動と評価 —

工藤 榮一（帝京平成大学）

## 問題と目的

ある大学では、新入生に対して、大学導入教育「フレッシュセミナーⅠ」を設置し、全学共通の必修科目としている。在学中に各自の分野の学習に取り組んでいくとき、また将来社会に出てその知識や技術を生かして活躍していくとき、その学びや実践の土台となり、助けとなるような幅広い教養、知識、常識、マナーをしっかりとつけることを目的としており、児童学科においても、それを目指すところの教育活動が行われている。

セミナーのクラスは少人数で編成され、担当教員（クラス担任）は、学生一人一人の個性・適正を考慮しつつ、学業面や生活面、さらには将来の人生設計についても積極的に助言や指導を行う。セミナーはいわば「学級活動」であり、学生生活全般にわたる支援の場、広い意味での「キャリア教育」の場であり、それを有効に機能させたいと考える。

そこで、問題と本研究の目的は、大学におけるキャリア教育をどのように捉えるか、そして、児童学科における初年次のキャリア教育の在り方を明らかにすることである。

方法論的には、問題を設定し、結果を得、その結果を教育学的に考察し、最後にまとめるという方法をとった。

## 1. キャリア教育の展開

「キャリア教育」という用語が文部科学行政関連の文書に初めて登場したのは、1999年12月に出された中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続について」（中央教育審議会、1999）である。答申は、学校と社会および学校間の円滑な接続を図るためにキャリア教育が必要であることを説き、小学校段階から発達段階に応じて実施すべきことを提言している。

以降、2011年1月に出された中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（中央教育審議会、2011）に至るまでの、教育行政におけるキャリア教育の展開を、川崎（2010）は表1のようにまとめている。

表1 これまでのキャリア教育とこれからのキャリア教育

|                                       | 文部科学省（2004, 2006）                            | 中央教育審議会（2008a, 2009）                             |
|---------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| はぐくむもの<br>キャリアのとらえ方<br>働きかける対象<br>目 的 | 勤労観・職業観<br>「意識」としてのキャリア<br>意欲・態度<br>キャリア発達支援 | 基礎的・汎用的な能力<br>「能力」としてのキャリア<br>知識・技能<br>社会的・職業的自立 |
|                                       | これまでのキャリア教育                                  |                                                  |
|                                       | これからのキャリア教育                                  |                                                  |

表のように、これから求められるのは、両者の観点を含む包括的なキャリア教育であるといえるであろう。「勤労観・職業観」と「基礎的・汎用的な能力」、「意識」と「能力」としてのキャリア、あるいは意欲・態度と知識・技能への働きかけはいずれもキャリア教育の両輪である。つまり、「キャリア」概念に基づいて「勤労観・職業観」を育てるとともに、社会生活・職業生活で求められる「基礎的・汎用的な能力」をはぐくみ、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援して社会的・職業的自立をうながすキャリア教育というとらえかたである。

特に、中央教育審議会答申（2011）は、「幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること」と、大学でもキャリア教育実践を求め、その中心として「基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を重視する」との方向性を示した。

## 2. 身につける力

このような考え方に立った場合、キャリア教育を通してどのような力を身につけることが求められるのであろうか。

社会で必要とされる力や、社会に出て行くために必要な力については、さまざまな概念が提唱されてきた（表2）。

表2 各省庁が提言してきたさまざまな「身につける力」

|      | 文部科学省（2004）                                          | 中央教育審議会（1996）                                         | 中央教育審議会（2008b）                                         |
|------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 概念要素 | 4領域8能力<br>・人間関係形成能力<br>・情報活用能力<br>・将来設計能力<br>・意思決定能力 | 生きる力<br>・自ら学び自ら考える力<br>・豊かな人間性<br>・健康や体力              | 学士力<br>・知識・理解<br>・汎用的技能<br>・態度・志向性<br>・総合的な学習経験と創造的思考力 |
|      | 経済産業省（2006）                                          | 厚生労働省（2004）                                           | 内閣府（2003）                                              |
| 概念要素 | 社会人基礎力<br>・前に踏み出す力<br>・考え抜く力<br>・チームワーク              | 就職基礎能力<br>・コミュニケーション能力<br>・職業人意識<br>・基礎学力<br>・ビジネスマナー | 人間力<br>・知的能力的要素<br>・社会・対人関係力的要素<br>・自己制御的要素            |

この中で、文部科学省（2004）の「4領域8能力」は社会へ出て行くために必要な力であり、他は、社会で仕事や生活をしていく上で求められる力といえよう。

中央教育審議会答申（2011）で提示された「基礎的・汎用的能力」の具体的内容については、このような各界から提示されている様々な力を参考としつつ、特に国立教育政策研究所による「キャリア発達にかかわる諸能力（例）」を基に、「仕事に就くこと」に焦点を当て整理を行ったものであり、実際の行動として表れるという観点から、次の4能力に整理されている。

「人間関係形成・社会形成能力」（人や社会との関わりは、自分に必要な知識や技能、能力、

態度を気付かせてくれるものであり、自らを育成する上でも影響を与えるものである。具体的な要素としては、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。)

「自己理解・自己管理能力」(自らの思考や感情を律する力や自らを研鑽する力がますます重要である。具体的な要素としては、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。)

「課題対応能力」(自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。)

「キャリアプランニング能力」(社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。具体的な要素としては、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。)

これらは、幼稚園・小学校・特別支援学校の教師を目指す児童学科の学生が、就職を目指しての大学生活においても、また、教職に就いてからも必要な能力であると考えられる。

### 3. 研究の経過と本研究の目的

児童学科においては、1年次、基礎的な科目を学ぶことを通して幅広い教養を身に付け、2年次、身に付けた基礎的教養を土台に専門的な科目の学習に取り組むという学びのステップをとっている。

1年生には、新しい体験をたくさん積ませ、どう感じたか、どんな変化が自分の中で起こったか、これからの生き方の中で活用できるものはないかと振り返らせ、一人一人に、世の中にはいろいろなことがあるということを感じ取らせたい。専門科目の多くが用意されている2年次以降に、学生が目的をもって勉学に励み、自信を持って卒業し、自立した社会人となるため、キャリア形成支援が特に大事だと考えるからである。また、この地にキャンパスを置く大学としては、これから地域を基盤として、地域の協力を得て成長していくことになり、地域に出て貢献活動することも大学の使命だと考えるからでもある。このようなことから、児童学科フレッシュセミナーⅠにおいて、「地域を知ろう」「職場を知ろう」とのテーマのもと、4年前から、キャリア教育の視点で、体験活動を核とした実践を重ねてきた。

これらは、文部科学省(2004)が「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」として提示した、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力からなる「4領域8能力」に基づいた、小学校(工藤2005)・中学校(工藤2008)での実践を基に、また高等学校の「職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度」の例を参考に取り組んできたものである。この結果、小学校・中学校で行ってきたキャリア教育の実践研究を生かした取組が、大学においても生徒指導面に有効に機能することが確認された。(工藤榮一2009)

中央教育審議会答申(2011)が示された今、「キャリア」概念に基づいて「勤労観・職業観」

を育てるとともに、社会生活・職業生活で求められる「基礎的・汎用的な能力」をはぐくむという観点から、キャリア教育の活動を再構成することが不可欠である。

また、職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）には、職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度が記述されており、これらは「効果測定尺度」としても活用できた。しかし、今回の答申では「基礎的・汎用的能力」の4能力が提示されただけで、育成することが期待される具体的な能力・態度は記述されておらず、効果測定のための適切な尺度の作成も必要であると考ええる。

以上のことから、本研究では、前述のように、児童学科における初年次のキャリア教育の在り方を明らかにするため、フレッシュセミナーⅠのカリキュラムを開発し、そこで展開されたキャリア教育の取り組みの効果と意義を検討することを目的とする。

## 方法

### 1. キャリア教育カリキュラム作成

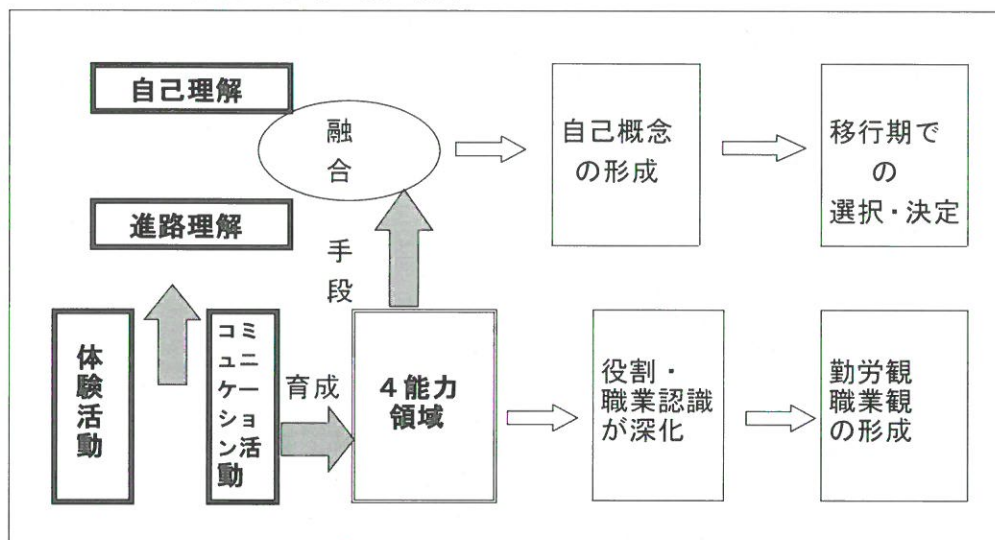
中央教育審議会答申（2011）において「社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を重視する」との方向性が示されたが、体験活動には、国立教育政策研究所（2009）も指摘しているように、職業や仕事の世界についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待される。

また、初年次キャリア教育の実践では、「自己理解」（興味・関心、能力・適正や自己実現の方法の理解を得させる活動）、「進路理解」（様々な役割や職業の情報、学校情報などの理解を得させる活動）、「体験活動」（啓発を意図し、課題解決を目的とした経験につながる活動）、「コミュニケーション活動」（発表、話し合い、相談活動）の4つの活動が重要な働きをすると考える。（工藤 2004）

具体的には図1のように、学生の「自己理解」と「進路理解」とが、「体験活動」や「コミュニケーション活動」を中心とする様々な活動を通して融合し、自己概念が形成され、来たるべき移行期での選択決定へと導く指導援助のプロセスがキャリア教育の活動だと考える。この場合、4能力は、「自己理解」と「進路理解」の融合を押し進める手段となる。

また、この「自己理解」と「進路理解」の融合に、4能力を育成する活動が展開され、並行して、役割・職業認識が深化し、勤労観・職業観の形成が進んでいくと考える。この場合には、4能力は育成したい目的でもある。

図1 キャリア教育の活動と能力領域



今年度（学級編成：男8，女10）は、フレッシュセミナーの時間内での活動を原則とし、学生の空いている日時を有効に活用した、体験活動を核としたカリキュラムを作成し実践した。事前に、関係団体等には支援・指導依頼を、大学には学外活動申請を行い、担任同伴の活動であったことは言うまでもない。

前期「地域を知ろう」[資料Ⅰ]では、地域で活動なさっている方々（子ども家庭支援センター、区役所危機管理課、警察署）に来校願い、地域環境（自然・人・物）の美化・浄化活動について話していただいた後、学生を、これら「地域貢献活動」に参加・活動させた。具体的には、「地域探訪を兼ねた煙草吸い殻拾い（男女混合グループで探訪ルート・拾う煙草の目標本数を決める）」「駅周辺のガムはがし清掃（活動場所、薬品・道具は警察で手配）」を警察署の支援のもとに、「夕焼けこやけ隊（区役所職員有志の自転車による防犯・あいさつ活動（火曜17:30～19:00））、少人数男女混合グループで1回以上体験入隊」「子ども家庭支援センターのお手伝い（学級を2グループに分けて、センターを訪問し虐待防止グッズ作成）」を区役所の指導のもとに行った。

後期「職場を知ろう」では、「職場学習（業界研究）」として、「教育関係者（区教委指導主事・新採2年目の男女教諭）による進路講話」「幼・小・中学校授業参観（各自、区教育委員会から提供された区立学校参観週間一覧表から参観日時を決め、幼・小・中学校3校の授業を参観）」を区教育委員会の支援のもとに行った。男女教諭の講話に関しては、年齢が若く考え方も近い彼らから得るものが多いとの考えから、また授業参観校に関しては、小学校教諭を希望する者が多く、小学校前後の校種教育を参観することは意義のあることと考えたからである。

さらに、3人以上の仲良しグループ活動で、協力して「年間体験活動のまとめ」として、記録写真を使い、これらの活動から得たものと自分たちの意見等のパワーポイントを作成し発表会を行った。4能力の定着と、プレゼンテーション力の向上を意図した活動である。

なお、活動毎に提出した報告書、学期末の作文等から、体験を経験につなげることができたかの効果を確認した。

## 2. 効果測定尺度作成

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）の、職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度（高等学校）等を参考に 50 項目を作成し、児童学科 1 年 110 名、2 年 109 名計 219 名に調査を行った。[資料Ⅱ]

調査結果をもとに、4 因子の仮定のもと、最尤法、プロマックス回転で因子分析を行い、表 3 の結果を得た。4 因子 4 項目ずつの因子負荷量は、0.4 以上の負荷量を示し、かつ 2 つの因子にまたがって 0.4 以上の値を示さなかった。

各因子 4 項目の内容から、第 1 因子は、「かかわる力」（他者と協力して社会をつくり上げる力）、第 2 因子は、「みつめる力」（自分を知り伸ばそうとする力）、第 3 因子は、「もとめる力」（課題を見つけ解決する力）、第 4 因子は、「えがく力」（キャリアを形成していく力）と命名した。

クロンバックの  $\alpha$  係数は、第 1 因子で 0.734、第 2 因子で 0.760、第 3 因子で 0.779、第 4 因子で 0.790 であった。

表 3 に示した各因子の 4 項目を、基礎的・汎用的能力の効果測定尺度に用いることとし、効果測定を実施した。「かかわる力」「みつめる力」「もとめる力」「えがく力」とした各視点は、4 項目ずつの計 16 項目である。

回答は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「まったくあてはまらない」の中からひとつを選択する方式であり、分析においてはこれらの回答を 4～1 点として得点化した。各視点についての最小値は 4、最大値は 16 である。

対象は 1 学級 18 名であるが、前期始（5 月 10 日）、前期末（7 月 27 日）[資料Ⅲ]、学年末（12 月 21 日）の計 3 回の効果測定を行った。なお、前期始に実施された第 1 回の効果測定は、効果測定尺度を作成するための「進路アンケート」を兼ねて行われた。

表3 因子分析結果 (N=219)

| 項                                              | 目                                            | I      | II     | III    | IV     |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 第1因子:「かかわる力」(他者と協力して社会をつくり上げる力) $\alpha=0.734$ |                                              |        |        |        |        |
| ①                                              | リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。    | 0.760  | -0.064 | -0.022 | 0.007  |
| ②                                              | 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。         | 0.743  | -0.010 | -0.026 | -0.005 |
| ③                                              | 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。       | 0.545  | 0.098  | -0.031 | -0.080 |
| ④                                              | 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。            | 0.498  | 0.013  | 0.105  | 0.062  |
| 第2因子:「みつめる力」(自分を知り伸ばそうとする力) $\alpha=0.760$     |                                              |        |        |        |        |
| ①                                              | どのような意識のもとで本学科に入学し、今後どのように取り組んでいくかがはっきりしている。 | -0.027 | 0.710  | -0.170 | 0.077  |
| ②                                              | 労働意欲をしっかりと持ち、将来像を含めて自身を明確化する。                | 0.100  | 0.650  | -0.121 | 0.112  |
| ③                                              | 専門的な知識を身につけ、自分の将来像を展望して進路を模索する。              | 0.025  | 0.621  | 0.166  | -0.122 |
| ④                                              | 今行っていることを進路選択に結びつけて考える。                      | -0.072 | 0.609  | 0.234  | -0.062 |
| 第3因子:「もとめる力」(課題を見つけ解決する力) $\alpha=0.779$       |                                              |        |        |        |        |
| ①                                              | 情報の収集や、交渉、調整などを通じて困難を克服しながら目標を達成する。          | -0.057 | -0.023 | 0.877  | -0.073 |
| ②                                              | 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。         | -0.039 | -0.015 | 0.578  | 0.166  |
| ③                                              | 絶えず問題意識を持って取り組み、解決の方法を自分の力で考える。              | 0.058  | 0.038  | 0.574  | 0.111  |
| ④                                              | さまざまな場面を想定し、必要な準備とステップを考える。                  | 0.252  | -0.051 | 0.478  | 0.048  |
| 第4因子:「えがく力」(キャリアを形成していく力) $\alpha=0.790$       |                                              |        |        |        |        |
| ①                                              | 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的に情報を集め検討する。           | -0.011 | -0.066 | -0.039 | 0.892  |
| ②                                              | 就職後の学習の機会や、卒業時の就職等に関する情報を探索する。               | -0.074 | 0.002  | 0.038  | 0.813  |
| ③                                              | 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。         | 0.082  | 0.083  | 0.050  | 0.469  |
| ④                                              | 多様な選択肢の中から、自己意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。        | 0.036  | 0.137  | 0.094  | 0.425  |

因子相関行列

| 因子  | I     | II    | III   | IV    |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| I   | 1.000 | 0.499 | 0.641 | 0.545 |
| II  | 0.499 | 1.000 | 0.612 | 0.500 |
| III | 0.641 | 0.612 | 1.000 | 0.623 |
| IV  | 0.545 | 0.500 | 0.623 | 1.000 |

## 結果

### 1. 活動から得られたもの

活動報告書や作文などから、各活動について表出されたものをまとめる。

#### (1) 地域貢献活動

入学後間もなくの「地域探訪」により、級友とも知り合え、この地で4年間学んでいくのだという新たな前向きな気持ちが湧いてきた。「ガム剥がし活動」では、普段何気なく通っている通学路が、ガムの食べかすで黒くよごれている現実を知り驚くとともに、一人一人がマナーを守ってきれいな街にしなければという気持ちを強く持った。

また、自転車に乗って、「夕焼けこやけ隊」の方たちと、大声で挨拶しながら街を巡るという初めての体験は、地域を知る楽しさと、多くの方が挨拶を返してくれたことで、喜びとやりがいを味わえた。これらのことから、地域に親しみを覚え、犯罪のないより良い街にしていきたいという気持ちも芽生えてきた。

さらに、「子育て家庭支援センター」での活動では、困難をかかえている家庭が多くあることを知るとともに、そこに通ってくる子ども達にも接することができ、自分たちがやっている活動が虐待防止に一役買っていることに満足感を得ることができた。

#### (2) 業界研究

指導主事からは、教師の心構え、教師のやりがい、そして、どんなことがあっても子どもを好きでいられる気持ちを失わないという、教師のあるべき姿を教えられた。若い教師から、苦勞しながらも一生懸命に取り組んでいる活力ある現場の生の声を聴くことで、今の自分を見つめなおし、これからの自分の在り方を考えることができた。

講話後の授業参観では、板書の仕方、子供への接し方等、参観の視点を持ち、いろいろな場面で自分だったらどう対応するだろうかとの問題意識を持って臨むことができた。また、学校種・学年が上がるごとに発達していく、子どもの成長過程を見ることができた。

これらのことから、教職への関心と教師への思いが、さらに深まった。

#### (3) 年間体験活動発表会

普段の授業ではあまり経験することがない、仲良しグループで、一年間の活動を振り返り、そこで得たもの・学んだことを出し合い、どのようなストーリーでパワーポイントにまとめるか知恵を出し合った。パワーポイント作成、そしてプレゼンテーション(10分間)と、それぞれが自分の得意の分野・持ち味を生かした取り組みとなり、協力することの大切さと、グループの一員として、自分も必要とされているのだとの、自己有用感を得ることができた。

## 2. 効果測定結果

効果測定結果は表4の通りである。表に示したのは能力ごとの尺度得点の平均値である。

平均値で見る限り、どの能力も1回目より2回目、2回目より3回目と、測定回数を重ねるごとに増加しており、それは表5から全てが有意な増加であることが言える。

表4 測定結果

| 能力    | 1回目   | 2回目   | 3回目   |
|-------|-------|-------|-------|
| かかわる力 | 10.33 | 11.11 | 11.89 |
| みつめる力 | 10.83 | 11.72 | 12.89 |
| もとめる力 | 9.89  | 10.72 | 11.56 |
| えがく力  | 9.78  | 10.56 | 11.44 |

表5 t検定結果

| 能力    | 比較      | t値    | 自由度 (N=18) | 有意確率 (両側) | 有意水準 |
|-------|---------|-------|------------|-----------|------|
| かかわる力 | 1回目と2回目 | 2.296 | 17         | 0.035     | *    |
|       | 2回目と3回目 | 3.289 | 17         | 0.004     | **   |
|       | 1回目と3回目 | 5.102 | 17         | 0         | ***  |
| みつめる力 | 1回目と2回目 | 3.063 | 17         | 0.007     | **   |
|       | 2回目と3回目 | 2.93  | 17         | 0.009     | **   |
|       | 1回目と3回目 | 4.395 | 17         | 0         | ***  |
| もとめる力 | 1回目と2回目 | 2.439 | 17         | 0.026     | *    |
|       | 2回目と3回目 | 2.675 | 17         | 0.016     | *    |
|       | 1回目と3回目 | 4.61  | 17         | 0         | ***  |
| えがく力  | 1回目と2回目 | 2.117 | 17         | 0.049     | *    |
|       | 2回目と3回目 | 2.582 | 17         | 0.019     | **   |
|       | 1回目と3回目 | 4.043 | 17         | 0.001     | **   |

## 3. 今年度もっとも身につけたい能力・態度

4能力「かかわる力」「みつめる力」「もとめる力」「えがく力」それぞれ4項目ずつ計16項目は、「職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度」でもある。

表6は、この中で、各自が今年度もっとも「身につけたいと思った能力・態度」とその理由、そして、年間活動後の結果である。

表6 もっとも身につけたい能力態度

| 能力                    | 具体的能力・態度                                                | 人数 | 合計 | 理 由                                                                                                                                    | 結果（○印は得点増加者）                                                                                                                                                     |
|-----------------------|---------------------------------------------------------|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| か<br>か<br>わ<br>る<br>力 | リーダー・フォロアーシ<br>ップを発揮して相手の能<br>力を引き出しチームワ<br>ークを高める      | 1  | 7  | ・異年齢の人と話すことが苦<br>手なので克服してより向上し<br>ていきたい                                                                                                | ○年度当初は友達がいなかったが<br>後期になり友人も増えた                                                                                                                                   |
|                       | 「やろうじゃないか」と<br>呼びかけ、目的に向かっ<br>て周囲の人々を動かしてい<br>く         | 1  |    | ・周りの人に影響され悪い方<br>向へ行かないように、よい方<br>向へと周囲の人を動かしてい<br>くべきだと思う                                                                             | ○授業を受ける態度、休み時間の<br>非常識な行動に対して注意するこ<br>とができるようになった                                                                                                                |
|                       | 異年齢の人や異性等、多<br>様な他者と、場に応じた<br>適切なコミュニケーション<br>を図る       | 5  |    | ・社会に出ていくうえで一番<br>大切だと思う<br>・学内だけでなく沢山のひと<br>と関わり能力を高めたい<br><br>・教師になるためにも重要だ<br>と思う<br>・他人とコミュニケーション<br>をとるのが苦手<br>・多くの人とつながりを持ち<br>たい | ○少人数で一年間活動したためコ<br>ミュニケーション能力が上がった<br>○後期の活動で年上・異性等と話<br>す機会が増えコミュニケーション<br>能力が上がった<br>○多くの人と交流が深まった<br><br>○異年齢・異性のひととコミュニケ<br>ーションがとれるようになった<br>○先輩との交流がとて深まった |
| み<br>つ<br>め<br>る<br>力 | どのような意識のもとで<br>本学科に入学し、今後ど<br>のように取り組んでいく<br>かがはっきりしている | 1  | 6  | ・教師になりたいが今後の取<br>り組みがはっきりしていない                                                                                                         | ・自分が本当に教師に向いている<br>のか分からなくなった                                                                                                                                    |
|                       | 専門的な知識を身につけ、<br>自分の将来像を展望<br>して進路を模索する                  | 2  |    | ・児童学科で学ぶべきでない<br>ことがはっきり自覚できたの<br>で今後をしっかりと考えよう<br>と思った<br>・教職に必要なことだという<br>意識があまりない                                                   | ○本当に就きたい仕事に対して、<br>専門的な知識を身につけて将来に<br>つなげようと努力している<br><br>○嫌いなことから逃げずに向き合<br>うことができた                                                                             |
|                       | 今行っていることを進路<br>選択に結びつけて考える                              | 3  |    | ・学んだことや経験を今後に<br>生かしたいと思っている<br>・今の生活を反省し、早起き<br>し集中力をつけたい<br>・自分を知り将来の夢が自分<br>に合っているか知りたい                                             | ○色々な経験をして目指す進路が<br>自分に合っていることが分かった<br>・今行っているものが進路に結び<br>ついていないかがまだ分からない<br>○色々な活動を通して自分にふさ<br>わしい夢だと再確認した                                                       |
| も<br>と<br>め<br>る<br>力 | 理想と現実との葛藤経験<br>等を通し、様々な困難を<br>克服するスキルを身につ<br>ける         | 1  | 3  | ・これから先、様々なことが<br>待っていると思うので、そう<br>いうことに立ち向かっていく<br>ときに必要と思う                                                                            | ○様々な体験を通して、足りない<br>部分に気づき、改善できるよう努<br>力している                                                                                                                      |
|                       | 絶えず問題意識を持って<br>取り組み、解決の方法を<br>自分の力で考える                  | 1  |    | ・自分で問題を解決するとい<br>う意識が薄いので、色々なこ<br>とに興味を持って取り組みた<br>い                                                                                   | ○自分で考えて意見を述べるなど<br>前向きな態度が身についてきた                                                                                                                                |
|                       | さまざまな場面を想定<br>し、必要な準備とステッ<br>プを考える                      | 1  |    | ・いつどのような場面におい<br>ても対応していけたらいいと<br>思った                                                                                                  | ○意識して取り組み場面によっ<br>ては対応できるようになった                                                                                                                                  |
| え<br>が<br>く<br>力      | 職業生活における権利・<br>義務や責任及び職業に就<br>く手続き・方法などが分<br>かる         | 2  | 2  | ・自分は先のことを考えずに<br>突っ走ってしまう<br>・今後のことを考えると、も<br>っと手続きなどの細かい点を<br>知りたい                                                                    | ○自分で調べることにより行動に<br>移せている<br>○教職に関する資格や、教師につ<br>いて色々知ることができた                                                                                                      |

## 考察

### 1. カリキュラムに関して

3 年間、年度末学生が書いた「育成することが期待される具体的な能力・態度」の成果と課題や作文等から、教師自身も質的評価を行い、年間活動内容の改善を重ねてきたことで、より児童学科の学生の実態に近づけることができたのではないかと考える。

具体的には、地域へのかかわりという身近なことから、教職へという流れは、初年次学生の実態を踏まえた適切な活動であったと捉えることができる。このような目的を定めた計画性のある取組の大切さ、特に体験活動が学生の自己・進路理解の融合に効果的に働いたことを実感した。単にイベント的な体験活動を並べただけでは、ただ細切れに体験したというだけで、キャリア教育としての有効な活動とは言えない。報告書、お礼の手紙、前期を終えて・年間活動を終えての作文等の事前・事後活動を工夫することにより、これらがイベント的な体験活動のつなぎとなり、年間を通した変化のある1つの活動として学生に認識されたのだと考える。また、活動によって、一斉、男女混合グループ、個別、仲良しグループ等、学習形態を意識して変えることも参加意欲に効果的に働き、大切なことだと知った。

年度当初、年間計画を学生に示し、どの活動でどのような力をつけて欲しいのかを、指導者としての立場で強く訴えた。さらに、後期始には、「私の歩んできた道」と題して担任自身の半生をパワーポイントにより語った。このように、学生にどのような力をつけようとしているのかを知らせるとともに、社会的自立・職業的自立を目指し、教師がキャリア教育の視点を強く意識して教育活動に臨んでいるかを、身を以て示すことの重要性も改めて感じた。

カリキュラムの中には、キャリアカウンセリングと銘打った面談の計画は組み入れられてはいないが、普段のちょっとした言葉がけや雑談でのことばのやりとりが、多くの学生の活動への取組や、今後の進路を考えることに大きな影響を与えたことが、年度末の作文「フレッシュセミナーⅠを振り返って」から読み取れる。週に1度の学級活動ではあるが、一人一人に対しての観察、気配りがいかに大切かを再認識した。

年間を通して、機会を捉えて感想、感謝の気持ち、学んだこと・得たこととそれに関する意見等を、自分のことばで書くということを多く取り入れた。自分の思いを書くことで、自己理解、進路理解、活動の意義の理解等を深め、プレゼンテーション力を高めることができたのではないかと考える。

### 2. 効果測定尺度に関して

作成した「効果測定尺度」を用いて、効果測定を行うこと及び測定結果は、キャリア教育活動に有効に効果的に活用できたと考える。

地域貢献活動支援・指導に対してのお礼の手紙を書いた直後の学期末、年団体験活動発表会直後の年度末と、節目・節目に4能力16項目について、4件法と、成果と課題を記述させることで、量的・質的両面からの自己評価[資料Ⅲ]を行った。身に着きたい能力態度が自覚され、自己の変化が明らかとなり、活動への取組に前向きな影響を与えたものと思われる。

また、教師にとっても学生の実態理解、教育活動改善につなげることができ、各能力向上の要因となったと考える。

学生一人一人が、今年度もっとも身に着けたいと思った能力態度とその理由（2回目調査）、そして、その結果（3回目）を調査し、表5のような結果を得た。

18人中16人（89%）が能力態度を向上させることができたと述べ、実際、効果測定結果も回を重ねるごとに増加していた。全員・全項目の調査結果は32%であることから、常に目標を意識して行動することで効果を上げることが確認できた。

なお、友人の有無、前向きに取り組んでいることの有無が、効果測定結果の得点増加・減少の要因ではないかと考え調査したが、18名全員が両方ともに有と回答し、結論を出すことはできなかった。

### 3. まとめ

よく指摘されることであるが、学生は予想以上に物事を知らないし、体験（特に成功体験）をしていない。それゆえ、新たな体験活動に興味・関心を示し、取組に対しては予想以上の前向きな反応を示し、体験結果は知恵となり良い経験に結びついているように、この実践を通して感じた。

印象に残った活動を問うと、偏ることなく全ての活動が挙がり、しかも、1年間を通して学んだことや得たものも多岐にわたった。具体的には、それぞれの活動の意義を理解し、興味・関心、好感、意欲をもって取り組み、級友・地域住民との親交、勤労観・職業観の育成、地域との連携、キャリア形成、自律心、自立心等を得ることができ、充実感、達成感、成就感が味わえたと思われる。

児童学科における初年次のキャリア教育の一形態を示すことができたと考えるが、児童学科に限らず、他学科でも取り入れることができる汎用性のある実践だと考える。

## 【資料Ⅰ】フレッシュセミナーⅠ前期計画

| 能力領域      | 領域説明        | 初年次に育みたい力                      | 活動 | 1回               | 2回         | 3回               | 4回        | 5回                  | 6回             | 7回               | 8回          | 9回                                        | 10回 | 11回 | 12回               | 13回         | 14回              | 15回                |
|-----------|-------------|--------------------------------|----|------------------|------------|------------------|-----------|---------------------|----------------|------------------|-------------|-------------------------------------------|-----|-----|-------------------|-------------|------------------|--------------------|
|           |             |                                |    | オリエンテーション        | 大学生になって    | 学科全体会            | 進路アンケート   | 文書の書き方              | 地域探訪           | 説明会              | 活動計画        | 地域を知ろう                                    |     |     | 事後指導              | 体験活動反省会     | 学科全体会            | 能力・態度自己評価          |
| 基礎的・汎用的能力 | 人間関係形成・社会形成 | 【かかわる力】<br>他者と協力して社会を作り上げる力    |    | ◎                |            | ◎                |           | ◎                   | ◎              | ◎                |             | ◎                                         | ◎   | ◎   | ◎                 | ◎           |                  | ◎                  |
|           | 自己理解・自己管理   | 【みつめる力】<br>自分を知り伸ばそうとする力       |    | ◎                | ◎          |                  | ◎         |                     | ◎              | ◎                | ◎           | ◎                                         | ◎   | ◎   | ◎                 |             | ◎                | ◎                  |
|           | 課題対応        | 【もとめる力】<br>課題を見つけ解決する力         |    |                  |            |                  |           |                     | ◎              |                  |             | ◎                                         | ◎   | ◎   |                   |             |                  |                    |
|           | キャリアプランニング  | 【えがく力】<br>果たすべき役割を自ら判断し形成していく力 |    | ◎                |            | ◎                |           |                     | ◎              | ◎                | ◎           | ◎                                         | ◎   | ◎   |                   |             | ◎                |                    |
| キャリア教育の活動 |             |                                |    | 進路理解、コミュニケーション活動 | 自己理解       | 進路理解、コミュニケーション活動 | 自己理解      | 自己理解                | 体験活動           | 自己理解、進路理解        | コミュニケーション活動 | 体験活動                                      |     |     | 自己理解、進路理解         | コミュニケーション活動 | 進路理解             | 自己理解               |
| 具体的内容     |             |                                |    | 大学生生活基礎知識、自己紹介   | 不安・期待を作文する | 1年と4年の交流会        | 現在の自分を考える | 文章(手紙・レポート等)の書き方を学ぶ | たばこ拾いしながら地域を巡る | 地域貢献活動団体の活動内容を聞く | 活動の準備・活動日決定 | 地域に出向き学級・班で活動(駅前美化、虐待防止活動手伝、防犯パトロール・挨拶運動) |     |     | 指導者への礼の手紙、活動報告書提出 | 貢献活動を振り返る   | 4年生の教育実習・採用試験報告会 | 自己評価カード記入・前期を終えて作文 |

## 〔資料Ⅱ〕 進路アンケート

次の文を読み、今のあなたに最も近いものを、「4. あてはまる」、「3. どちらかと言えばあてはまる」、「2. どちらかと言えばあてはまらない」、「1. まったくあてはまらない」の中から 1つずつ選び、番号を○で囲んで答えてください。(すべてに答えてください)

| 番号 | 項 目                                             | あてはまる | どちらかと言えばあてはまる | どちらかと言えばあてはまらない | まったくあてはまらない |
|----|-------------------------------------------------|-------|---------------|-----------------|-------------|
| 1  | 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。                   | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 2  | 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意見等を的確に理解する。                  | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 3  | 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。          | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 4  | リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。        | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 5  | 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。            | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 6  | 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。         | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 7  | 相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。       | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 8  | 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。          | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 9  | 状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。               | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 10 | 社会生活を送る上で、あいさつをする、時間を守るなどのスキルを意識的に身につける。        | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 11 | 積極的に進路選択についての体験談を聞くなどして、自分の進路決定の意味を考える。         | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 12 | 労働意欲をしっかりと持ち、将来像を含めて自身を明確化する。                   | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 13 | 自己の職業的な能力・適正を理解し、それを受け入れ伸ばそうとする。                | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 14 | ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。    | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 15 | 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。               | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 16 | チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。             | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 17 | 自分に不足している知識・スキルを認識し、大学時代に習得すべきことを明確にする。         | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 18 | いろいろなことに前向きに挑戦し、自分の可能性を確かめる。                    | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 19 | 自分の興味・関心に沿った学習と、学習以外で関心のあることに打ち込む。              | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 20 | 体験したことが、自分にとってどのような意味をもたらすのか考える。                | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 21 | どのような意識のもとで本学科に入学し、今後どのように取り組んでいこうかがはっきりしている。   | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 22 | 豊富な体験と経験をよりよく活用するため、自ら実践する。                     | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 23 | 今行っていることを進路選択に結びつけて考える。                         | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 24 | 専門的な知識を身につけ、自分の将来像を展望して進路を模索する。                 | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 25 | 自分のよいところを見つけようとし、さらにそれを伸ばす。                     | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 26 | 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。         | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 27 | 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設計し、その解決に取り組む。             | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 28 | 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。          | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 29 | 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。            | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 30 | 言われたことをやるだけでなく自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。    | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 31 | 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、最善のものは何かを検討し、それに向けた準備をする。 | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 32 | 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。                  | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 33 | 働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指す。          | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 34 | 情報の収集や、交渉、調整などを通じて困難を克服しながら目標を達成する。             | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 35 | 絶えず問題意識を持って取り組み、解決の方法を自分の力で考える。                 | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 36 | 自ら多くのことを体験し、いろいろな場面での対応にそれを生かす。                 | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 37 | 問題に直面したとき、自分の考えを持ったうえで指導を仰ぐ。                    | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 38 | さまざまな場面を想定し、必要な準備とステップを考える。                     | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 39 | 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。                | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 40 | 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。             | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 41 | ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。                   | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 42 | 将来設計に基づいて、今後取り組むべき学習や活動を理解する。                   | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 43 | 生きがい・やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。             | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 44 | 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的に情報を集め検討する。              | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 45 | 就職後の学習の機会や、卒業時の就職等に関する情報を探索する。                  | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 46 | 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。                    | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 47 | 多様な選択肢の中から、自己意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。           | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 48 | 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。           | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 49 | 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。            | 4     | 3             | 2               | 1           |
| 50 | 就業等の社会参加やこれからの学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。           | 4     | 3             | 2               | 1           |

〔資料Ⅲ〕 身につけたい能力・態度の自己評価（前期末） 氏名（ ）

| 身につけたい力 | 具体的能力・態度                                                                                                                                                                      | どちらか<br>とあては<br>まる |                    |                    |           | 成<br>果 | 課<br>題 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|--------|--------|
|         |                                                                                                                                                                               | あては<br>まる          | どちらか<br>とあては<br>まる | どちらか<br>とあては<br>まる | あては<br>まる |        |        |
| かわる力    | リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。<br>「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。<br>異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。<br>状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する。               | 4                  | 3                  | 2                  | 1         |        |        |
| みつめる力   | どのような意識のもとで本学科に入学し、今後どのように取り組んでいくかがはっきりしている。<br>労働意欲をしっかりと持ち、将来像を含めて自身を明確化する。<br>専門的な知識を身につけ、自分の将来像を展望して進路を模索する。                                                              | 4                  | 3                  | 2                  | 1         |        |        |
| もとめる力   | 今行っていることを進路選択に結びつけて考える。<br>情報の収集や、交渉、調整などを通じて困難を克服しながら目標を達成する。<br>理想と現実との葛藤経験等を通して、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。<br>絶えず問題意識を持って取り組み、解決の方法を自分の力で考える。<br>さまざまな場面を想定し、必要な準備とステップを考え、実行する。 | 4                  | 3                  | 2                  | 1         |        |        |
| えがく力    | 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的に情報を集め検討する。<br>就職後の学習の機会や、卒業時の就職等に関する情報を探索する。<br>職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。<br>多様な選択肢の中から、自己意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。                         | 4                  | 3                  | 2                  | 1         |        |        |

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 今年度もっとも身につけたい能力・態度 | 理 由 |
|                    |     |

## 引用文献

- 川崎友嗣 2010 キャリア教育の効果と意義に関する研究—意岐部中学校区における効果測定— 関西大学人間活動理論研究センター p174
- 工藤榮一 2004 「原東小学校におけるキャリア教育」～夢をえがき共に学び合い自分の可能性を伸ばそうとする子～ 沼津市立原東小学校 p17
- 工藤榮一 2005 キャリア教育が小学校を変える！—沼津市立原東小学校の実践— 実業之日本社
- 工藤榮一 2008 中学校におけるキャリア教育導入方策の研究～計画、実践、評価それぞれの段階における評価を活用して～ はごろも教育研究奨励会
- 工藤榮一 2010 帝京平成大学におけるフレッシュセミナーⅠの1 試行—キャリア教育の視点から—帝京平成大学紀要
- 国立教育政策研究所 2009 キャリア教育体験活動事例集
- 中央教育審議会 1996 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）
- 中央教育審議会 1999 初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）
- 中央教育審議会 2008a 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（諮問）
- 中央教育審議会 2008b 学士課程教育の構築に向けて（答申）
- 中央教育審議会 2009 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（審議経過報告）
- 中央教育審議会 2011 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）
- 文部科学省 2004 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために—
- 文部科学省 2006 小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き—児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために—